

<今回>215回目 2017年7月24(月)15時~18時 1503号室

読書は8冊目「邪馬壹国の論理」295P 珍敷塚 より

<前回>214回目(17-7-7) 出席者10名

資料 17-07-07-1) 前回のまとめ(清水)

A 報告

9日には多元の会での発表会に予定していた赤尾さんの体調がお悪くなった(2,3週間の休養要)ので急きょ清水が、川崎評瓦の影向寺遺跡現地説明会の資料。及び岩戸山古墳雑感を発表した。いずれも読書会で前回配布した資料である。

津多屋18625円(2000・9)ー625円

B 資料 なし。

C 読書 p278 異域の光景 より

- 1) 高い山脈が連なる島、南からの風は南に、北の風は北に吹き返してしまうほどの大きい山脈。巨大な亀、ジュゴン、隣甲の生物、大きな貝類、万年雪、陰火、大火山、大鯨、などの異域の光景がしめされる。
- 2) 毛翼(造語)の語は鋭い。群生、死肉を食らう性質から。断崖にはコンドルが羽ばたいている光景が浮かぶ。
- 3) 喬山の帝像 王者に似た顔が刻まれた像、イースターのモアイが想像されるという人がいた。水の徳はきわまりない。この巨大な海を往来するときにはどんな不思議があっても論じられない。倭人のもたらした異質の世界の報告の真なること、軽々しく否定せず、文字をもって記録した。
- 4) 海賦図 陸按(糸へん)(南朝劉宋5世紀の画聖)が描いたとされる絵画には
海童 海からの童子(奴婢の意味もある)の姿をしたもの 持衰の役割か。
馬衡(ばがん) 龍の首は馬になり頭に一角がある。馬首龍形の一角獣
天呉 人面8首、8足8尾、のイメージ、諸橋大漢和辞典に想像図がある。
魍両(いずれも虫偏) 左右対称に見える蜃気楼現象(遠業漁師の最大の恐怖)上下もある。
- 5) 3世紀の倭人の航海信仰 立原古墳の奥壁の絵画の解釈に直結する。最初の口絵参照 ①中央の馬(龍)の頭と従来船と云われたものは繋がっていることが判明した。(剥落、見える時期、照明器具、立会人同行者の確認など)馬衡である。②中央の人物は海童 ③馬様のものは天呉 よく観察すれば丸い顔に小さな顔が7つ描かれている。尾もふくらみから複数あるように見える。足も複数はある。④さしば、波は左右対称に描かれ、⑤5連の三角紋は九州装飾古墳に多く見られる神聖な模様であろう。⑥天呉の下朱の船は被葬者(航海王)の葬儀用か
- 6) 海賦の史料価値 竹原古墳の壁画の意味が分かった。倭人を中心主題にしている。倭人の航海信仰を数世紀にわたって伝承してきた文明があった。
- 7) 海賦の成立 木華、玄去虚、陽駿府の主簿、中央府の役人、陳寿と同世代人だが陳寿は外様の史官、2回目の壹与の朝貢には触れていないから時間帯が特定できる。(247年から265年)三國志と依拠史料は別のものであるという論拠を示している。

次回日程 17-8-7(月)15時から18時 602号室

8-25(金)15時から18時 601号室

9-1(金)15時から18時 602号室